

第16回 一文字一文字、漢字と向き合う

～ 神奈川県高等学校総合文化祭書道部門入賞 ～

今年度の神奈川県高等学校総合文化祭、書道部門で特選に入賞した1年石原さんに話を伺いました。

入賞おめでとうございます。特選に選ばれた作品について、教えてください。

玉献之(おうけんし)という人が書いた尺牘集(せきとくしゅう)の一部で、玄度時往来帖と言われており、草書で書かれています。それを臨書しました。

作品の制作にあたって、苦労したのはどんなところですか。



漢字を一文字、一文字、理解して書いていくことが一番難しかったです。私はテニス部にも所属しているので、練習する時間を確保するのも大変でした。定期試験前にテニス部の練習が休みになるタイミングで集中的に取り組みました。

書道のどんなところに魅力を感じますか。

顧問の先生は、私たちに親身になって指導してくださるとともに、ご本人も熱心に学ばれています。私は、幼稚園か、小学校の頃からやっていますが、書道は、長く続けていくことができると思います。芸術としての楽しみを感じたり、精神統一できるということもあると思います。

将来はどんなことを考えていますか。

横浜国立大学には、教員の免許を取りつつ、書道の専門家がいらっしゃって学ぶことができると聞いたので、興味を持っています。理数系にも興味があるので、そちらに進んだ場合でも、趣味として書道を続けていきたいと思っています。

書道同好会はどんな活動をしていますか。

現在は、3年1人、2年2人と私の4人で活動しています。それぞれ、好きな作品に取り組み、展覧会等に出品したりしています。今は、学芸音楽祭の看板を隷書で取り組んでいます。新入生歓迎会で、書道パフォーマンスができたらいいなあとと思っています。

隷書は味わい深い書体ですね。学芸音楽祭当日を楽しみにしています。書道パフォーマンスでは是非「光陵」と書いてほしいですね！

ところで、光陵高校での生活はどうか。

クラスのメンバーは個性豊かな人が多いのですが、皆、伸び伸びとしていて、思い描いていた理想どおりでした。

それは良かったです。光陵高校に入学しようと思ったきっかけは何ですか。

附属横浜中学校出身なので、光陵高校は意識をしていました。中学校時代、TOF Y（総合的学習の時間）では、折り紙の研究をして、i-ハーベスト発表会で、発表する機会をいただくことができました。その研究をさらに、光陵高校のKU（光陵ユニバース：総合的な探究の時間）で続けていきたいと思いました。また、中学校の先輩から光陵高校の話聞き、光陵高校に行きたいなと思いました。

TOF Yで行った折り紙の研究について、詳しく聞かせてください。

i-ハーベスト発表会では、「折り紙が脳にもたらす影響は何か」というタイトルで発表しました。文献から先行研究を調べた後、実験をしました。折り紙を継続して折ることで記憶力があがるという仮説を立て、クラスのメンバーに協力してもらいました。わずかですが、仮説を立証できました。さらにコミュニケーション能力にもいい影響があるという結果も出ました。地元の幼稚園に協力してもらったり、折り紙協会にインタビューにも行きました。

この後、KUではどんな研究をするのですか。

今は、折り紙と数学との関係に興味を持っています。空間認識能力との関係に興味を持っているのですが、空間認識能力の定義が科学者によって曖昧なので、どうしようかとも思っています。一方、折り紙は、運動能力との関係もありそうなので、実験などを取り入れながら研究してみようと思っています。

是非、頑張ってもらいたいと思います。ところで、テニス部との両立は大変ではないですか。

はい。実は生徒会書記もやっていますので、時間のやりくりは大変です。最近、テニス部が休みになる火曜日に書道をしています。もちろん勉強もしなければなりませんが、勉強については、授業に集中することが大切だと思っています。光陵高校に入学してから、時間管理、効率的な時間の使い方が身についたと自分でも思います。

そうですね。光陵生は皆、すきま時間の活用が上手ですね。これから冬本番を迎えますから、インフルエンザ等気を付けて、頑張ってもらいたいと思います。今日はどうもありがとうございました。